

タケノホソクロバ

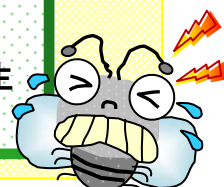
竹や笹の葉から発生し、幼虫は毒針毛を持つため触れると激しい痛みを襲われます。



屋外にいたタケノホソクロバ（宮前区犬蔵・11月）

虫のワシポイント

- 竹や笹の葉から発生
- 幼虫は毒針毛を持つ
- 激しい痛み 皮膚炎
- 幼虫は初夏と秋に発生



人体に害あり

形態

- ・ 幼虫は体長約 18 mm。体色は黄褐色から淡黄褐色。環節に4個ずつ黒いこぶがあります。
- ・ 成虫は翅を開いた時で 20 mm。体色は黒褐色。

生態

- ・ 幼虫は年に2回（初夏と秋）に発生します。
- ・ さなぎで越冬、最初の成虫は5～6月に発生し、竹や笹の葉裏に卵を産みつけます。
- ・ 初期の幼虫は竹や笹の葉裏で集団を作ります。葉裏から表皮を残して葉肉だけ食べるので、葉が白くなります。成長にしたがい、葉全体を食害します。

被害

- ・ 幼虫は黒いこぶに毒針毛を持っています。毒針毛に触れて、患部を掻いたり触ったりすると激しい痛みを感じ、蕁麻疹のように赤く腫れます。痒みは2～3週間続きます。
- ・ 成虫は無害です。

刺されたら

- ・ 粘着テープを貼って毒針毛を除去します。そして、流水でよく洗い流し、抗ヒスタミン軟膏（かゆみ止め）を塗ります。掻いたりするとかえって症状を悪化させます。
- ・ 症状がひどい場合は、医療機関を受診しましょう。

駆除するには

- ・ 幼虫が葉裏にかたまっているうちに、葉ごと除去します。
- ・ 発生が多い株は、竹の幹ごと切り取り焼却します。
- ・ 有機リン系殺虫剤の乳剤を散布します。

発生を予防するには

- ・ 冬に竹や笹の葉に、扁平で灰褐色のまゆをつけています。冬にまゆがついていないか確認します。

相談事例

隣の雑木林から毛虫が発生している!

